

民国連携による市町村森林整備計画のブラッシュアップ

－指標林の設定－

中部森林管理局 飛騨森林管理署
森林技術指導官 稲垣 正紀
岐阜県飛騨農林事務所 林業課
技術課長補佐 中谷 和司

1 課題を取り上げた背景

平成23年に一部改正された森林法で森林所有者等が作成する森林施業計画が森林経営計画に改められ、集約化を前提に、路網の整備等を含めた実効性のある計画とし、森林所有者のほか、その委託を受けて長期・継続的に森林経営を行う者（森林組合等）が計画を作成することになり、計画を作成する者は幅広い知識と森林所有者等との高い合意形成能力が求められるようになりました。

こうした中、補助制度を重視し長期的な視点が不十分なまま計画作成や施業が行われている現状で森林所有者等に対して目指すべき森林の姿を十分に説明できない状況にあります。

このため、地域に現存する森林の中から優良林分と思われる林分を抽出して指標林とし、将来目指すべき森林の姿の具体例として地域に応じた森林施業の進め方や森林所有者等との合意形成に役立て、地域の実情に合った市町村森林整備計画や森林経営計画に反映しようと考えました。

2 取組の経過

民有林における森林経営計画作成の課題として、森林施業プランナーが目標林型を描けない現状があり、モデル林を設置にあたり、管理体制が整っている国有林へ協力要請がありました。

そこで、民国の准フォレスター連携主導のもとプロジェクトチームの立ち上げ、目的・行動計画・指標林候補地・現地調査内容の検討を実施しま

した。

プロジェクトチームによる現地調査では、調査項目や調査手法等の検討（目揃え）を行い、その後各地区に分かれての現地調査、データの取りまとめ、意見交換や研修会を開催するとともに取組について管内外へ紹介して来ました。



プロジェクトチームによる
指標林候補地の選定

3 実行結果

民・国の関係機関が連携し、地域の当面の目標林型となる13箇所の指標林を設定することができ、市町村森林整備計画のブラッシュアップや実効性のある森林経営計画の作成等への糸口となりました。

民国連携による一連の活動を通じて、関係者間で「森を見るモノサシ」の共有が図られることにより、タテワリ行政の垣根が取り払われ「敷居の無い」関係づくりもできてきました。

また、こうした取組を進める中で民国担当者のスキルもアップし、地域の人材育成へと繋がりました。これまで「植栽木」のみに目を向けていた「計画者」に「森の中の土壌」、「草木」、「水」、「虫」、「鳥」などの生態系を頭に置きながら計画をたてる「目」を引き続き養い、「民国連携による森林整備計画のブラッシュアップ」の取組を進め、地域の森林づくりに貢献してゆきたいと考えています。

4 考察

民有林の市町村森林整備計画及び国有林の施業実施計画の編成・実行に今回設定した指標林をどのように反映させ、どのように活用していくかが課題であります。

ゾーニングとの整合性や路網整備計画等森林施業プランナー等が将来の「目標林型」がイメージ出来る「指標林」を設定することにより、地域に根ざした森づくりがより一層の促進するものと確信しています。